

2020年度 大宮小学校 行動計画・学校自己評価・学校関係者評価

学校教育目標 目指す子ども像 目指す学校像 研究主題	『自ら学び、心豊かで、しなやかに生きる子どもの育成』 ①自ら課題を見つけ、とことん考える子「もっと知りたい」 ②自分の考えや気持ちを表現し、伝え学び合える子「伝えたい」 ③お互いの違いや良さを認め合い、自他を大切にできる子 ④しなやかな強さを持ち、なんにでも前向きに挑戦しようとする子 『明日も来たいと思う学校』 『もっと知りたい伝えたい ～自分の考えや気持ちを表現し伝え合うことのできる児童の育成～』	◎学校関係者評価委員 ・小野平和さん(阿曾区長) ・奥田 亮さん(滝原区長) ・宮村美和さん(R1:PTA役員)
-------------------------------------	---	---

A-達成 B-ある程度達成 C-未達成 ○:成果 ▲:課題 ◆:来年度に向けて

重点目標	行動計画		学校自己評価		学校関係者評価	
	到達度のわかる目標	評価	成果と課題・改善策や今後の方向性	評価	意見等	
「確かな学力の育成」 学びに向かう力、生きる思考力・判断力・表現力、技能、課題に対応できる	(1)学力向上の推進					
	①研究主題にせまる取組の推進	「研究発表に向けて計画的に研修を積み上げ、成果があった」と答える教職員90%以上。	A	○研究発表に向け積極的かつ計画的に研修活動を積み上げ研究会を成功させ外国語教育の先進的な事例として他校にも影響を与えることができた。教職員アンケートでは90%以上の肯定的評価を得、自身の授業力の向上や自信につながったという意見が多かった。 ○単元テストでは概ね8割以上の定着度が見られる。5,6年生の全国学力調査やみえスタディチェックでは、全国や三重県平均を上回る成績であった。 ◆児童アンケートで「考えることが好き」と答えた児童は89%、「自分の考えが言える」と答えた児童は80%。肯定的評価の値は低くはないが、研究テーマである「もっと知りたい・伝えたい」を具現化するため、次年度はさらに目標値を上げ取り組む。 ◆本年度は時間的に難しかったが、全国学力調査やみえスタディの分析を全職員で行い、新しい学力観の中でどんな力を本校の子どもにつける必要があるのかを共通理解することが必要。	A	【意見】研究発表会では低学年の児童が楽しそうに授業を受けている姿が印象的であった。 (質問)タブレットの使い方…現在の授業での様子を説明。 【意見】タブレットを自宅や別室(ドリルや遠隔)で使うと、教室に入りにくい児童に有効であると思う。
	②研究発表(外国語)に向けた取組の推進	研究会のアンケートで「参考になった」と答える参加者90%以上。	A			
	③主体性、思考力・判断力・表現力の育成	「考えることが好き」と答える児童80%以上。	A			
	④言語技術の育成	「授業で自分の考えが言える」と答える児童80%以上。	B			
	(2)特別支援教育の充実					
	①子ども理解と支援体制の充実	「先生は自分をよく分かってくれている」と答える児童90%以上。	A	○児童アンケート「先生は自分をよく分かってくれている」99%、保護者アンケート「学校は子どもをよく理解しようとしている」97%にあるように子ども理解への学校の姿勢は理解されている。 ▲ただし教職員アンケート「子ども理解と支援体制の充実」は16%の職員が不足を感じている。生活や学習に課題を持った児童に、必ずしも手厚い対応ができていない現状もある。 ○スクールカウンセラーは月1回の来校で、連携を密に取った。カウンセラーを講師にして校内研修も実施することができた。 ◆人的な補強が欲しいところではあるが難しい面がある。教職員、保護者、地域、関係機関が協働して工夫していかなければならない。	A	(質問)特別支援教育の状況について…特別支援学級、及び通常学級での支援の様子を説明。 【意見】課題を持った児童の保護者も心配であると思う。しっかり取り組んで欲しい。
	②全職員による情報交換と共通理解	「学校は子どもをよく理解しようとしている」と答える保護者90%以上。	A			
	③継続した見取りと記録	「子ども理解と支援体制が充実していた」と答える教職員90%以上。校内支援会議月1回開催。	B			
	④外部機関(専門機関)との連携	SCや奥伊勢支援センターとの連携。(校内研修、ケース会議の実施)	A			
	(3)教職員の授業力・資質向上					
	①わかる授業(授業力)向上のための研修	「授業が分かる」と答える児童90%以上。	A	○児童アンケート「授業が分かる」の項で95%の肯定的な評価。 ○教職員アンケート「研修は資質向上につながった」で100%の肯定的評価。 ○特に本年度は外国語の研究会を通して研究授業を核に研修が充実し授業力の向上に繋がった。 ◆コロナ禍でもあり、対外的な研修への参加はあまりできなかった。 ▲学力向上は子どもの将来につながるものであり、学校の主たる役割である。そのためには高い授業力が必要であり、教員は授業力向上を意識し日々研鑽している。現状維持ではなく常に新しい授業技術や工夫を貪欲に取り入れ研究・実践していくことが求められる。	A	【意見】小学校でも英語の授業が入ってきたりなど、先生方も新たな勉強や準備が必要になり、大変であると思った。
②研究授業や教師間の授業参観の推進	「学校は分かりやすい授業に取り組んでいる」と答える保護者90%以上。	A				
③日々の活動の中でのOJTの充実	「研究授業や校内研修は資質向上につながった」と答える教職員90%以上。	A				
④校外研修への積極的な参加	一人年2回以上の校外研修への参加。	C				
「安全安心で豊かな心を育む学校づくり」 自他の命を守り、自分も他者も大切にすることを育む教育活動	(1)防災・安全・健康教育の推進					
	①自分の命を自分で守れる児童の育成	安全教育・健康教育・食教育の計画的な実施。※年間計画に基づく実施やその内容	A	○コロナ禍で実施できないものもあったが、安全・健康・食育等、計画に基づいて実施することができた。 ○避難訓練を月1回実施。緊急地震速報への対応や静かで素早い避難ができるようになっている。実際に大きな地震が発生した時に落ち着いて行動できるかがカギである。 ○保護者・教職員アンケートで安全・危機管理の項は100%に近い肯定的評価。 ◆日々の危機管理や意識の向上については、ちょっと気づいたことや不安に感じたことを見逃さず、組織に発信して共有することが大切。 ◆実施したアナライズ対応訓練のような実践訓練が大切である。	A	(質問)避難訓練の様子等について質問。…緊急地震速報に対し素早く身を守る行動ができて等、状況を説明。 【意見】訓練をたくさんして身を守る行動が自然にできるようになることは大切なことである。
	②教職員の危機管理意識の向上と組織力の強化	「自分は火災・地震時の行動が分かっている」と答える児童100%。	B			
	③健康教育・食育の充実	「学校は子どもの安全確保対策に努めている」と答える保護者95%。	A			
		危機管理に関わる教職員アンケートで肯定的な評価が100%。	A			
	(2)道徳性・人権意識の育成					
	①いじめや差別のない安心安全な学校	「学校は楽しい」と答える児童90%以上	A	○「学校が楽しい」児童アンケート97%、保護者アンケート91%。 ▲ただし「そう思わない」児童・保護者がいることが課題。「明日も来たいと思う学校」という学校づくりのテーマ達成のために努力しなければならない。 ○この一年を通して問題となるようないじめ事案の発生はなかった。 ▲「いじめは絶対に許さない」児童アンケートで◎87%、○9%、△4%。13%の児童が断言していない。継続していじめを許さない取組が必要。 ◆校区(大宮・七保)人権教育推進協議会の活動を通して研修会、授業公開、人権フォーラムなどを充実させている。区人推協と連携して人権教育を充実させる。 ◆日常生活の中でアテを高くし、差別やいじめに繋がる言動を見逃さない。	A	【意見】12月の高学年の人権集会を参観。人権作文の発表者は自分の思いをしっかりと発表し、それを聞いた児童も自分の意見をきちんとと言っていた。
	②違いや良さを認め本音が出せる仲間づくり	「いじめは絶対に許さない」と答える児童100%。	C			
	③日常生活のあらゆる場面を重視	「学校は仲間づくりや心の教育を大切にしている」と答える保護者90%以上。	A			
	④大宮中学校区との連携を深化	道徳・人権教育の計画的な実施。※年間計画に基づく実施やその内容	A			
	(3)人とつながる力の育成					
	①自己肯定感や自尊感情の育成	「自分には良い所がある」と答える児童90%	B	○児童アンケート「自分には良いところがある」◎54%、○36%。 ▲ただし、△9%(7名)、×1%(1名)が「そう思わない」の否定的な評価。 ○保護者アンケート「学校は子どもを認め大切に…」は97%の肯定的評価。 ○児童アンケート「人との話や活動は楽しい」は99%の肯定的評価。 ○概ね児童の自尊感情・自己肯定感・自己有用感が高い。また仲間づくりもできている。 ◆児童会の活動、授業での学び合いや班活動等、児童の自主的な活動や仲間づくりを推進している。 ◆QUやアンケートの結果を個や学級集団にフィードバックし具体的な手立ての後また評価するようなPDCAサイクルを築きたい。	B	【意見】自信を持つことは大切。いろいろな活動をして子どもに自信を持たせてあげて欲しい。
②非認知能力やメタ認知能力の育成	「学校は子どもの良いところを認める教育活動を行っている」と答える保護者90%以上	A				
③ソーシャルスキル、コミュニケーション能力の育成	「人と話したり一緒に活動することは楽しい」と答える児童90%以上。	A				
④地域や家庭との連携と交流	非認知能力、メタ認知能力、ソーシャルスキルの研修を行い、教育活動に活かしている。	C				
「地域や学校への愛着と誇りを育む教育活動・働きやすい職場環境」 地域や学校への愛着と誇りを育む教育活動・働きやすい職場環境	(1)地域学習の充実					
	①学習のねらい(つきたい力)の明確化と工夫	ねらいを明確にして地域学習を行うことができた」と答える教職員90%以上。	C	▲コロナ禍の影響で、本年度は対外的な行事は縮小・中止せざるを得ないものが多かった。保護者アンケート「学校は地域に根ざした活動をしている」の項で11%がもう少し努力の評価。「どんな活動をしているのか?」というコメントもあったため、もっと広報が必要である。 ○児童の地域に対する愛情度は高い。「大紀町が好き」◎83%、○17% ◆教職員アンケート「ねらいを明確に」の項でC30%。この課題は昨年度よりある。活動がお客さんにならないように、「子どもにどんな力をつけたいのか?」というねらいを共有して活動を計画する必要がある。	B	【意見】子どもに目的意識を持たせることは大切なことである。
	②郷土の特色を生かした継続性のある取組	「学校は地域に根ざした活動を大切にしている」と答える保護者90%	B			
	③人との出会いを通してその思いや願いを知る取組	「地域学習は好きだ」と答える児童90%以上。	A			
		「この地域(ふるさと)が好きだ」と答える児童90%以上。	A			
	(2)情報発信の充実					
	①各種たより、HPによる情報発信	「学校の様子はたよりやHPで知ることができると答える保護者90%	B	○保護者アンケート「学校は保護者や地域の声を活かした学校経営をしている」の項では95%の肯定的評価。 ○ホームページは本年度開設したが、更新や活用は今後の課題でもある。 ▲ただし、「通信やホームページ」での発信は11%の努力が必要の評価。 ▲特に今年度は授業参観が一度も持てなかったことに対する保護者の要望が多かった。 ◆来年度は、コロナ禍ではあるが工夫して学校を参観してもらおう機会を設けるとともに、さらに情報発信を充実させる。	B	(質問)ホームページについて…実際に見てもらい少し説明。 【意見】評議員として年3回学校を訪問し子どもの様子も見たが、なかなか分からないことが多いのも事実である。
	②授業参観や学校公開の推進	「学校は保護者や地域の声を活かした学校経営に取り組んでいる」と答える保護者90%以上。	A			
	③学校評価・関係者評価の充実と学校改善	学期に1回の授業参観、各種行事への参加呼びかけを積極的に行う。	C			
		学校評価のPDCA化(各学期でステップの評価実施)※評価が改善に結び付く。	C			
	(3)教職員が働きやすい環境づくり					
	①校内安全衛生委員会の活用と定例化	時間外労働の縮減(月平均30H以内) ◆上限:月45H、年360Hを超えない。	A	○多い職員で、月平均25時間、年間300時間の時間外労働がある。平均では月13時間、年間140時間の時間外労働。定時退校日の達成率90%超。 ▲職員会議や研修会は内容も多く、目標の会議1時間以内は難しかった。 ○休暇については、2月末で一人あたり年休取得平均13日、特別休暇7日。 ○職場の雰囲気は協力的で働きやすい環境であると思われる。 ○校務支援システムや新しいPC・機とワークス(ソフト)の組合せによって仕事の効率化が図られている。 ▲勤務時間縮減に向けた職員の意識は上がってきているが、全体の仕事量がそれほど減っていないため恒常的に忙しいと感じている。 ◆職員の意識の向上、仕事の見直しや削減と効率化の両面で取組を進める必要がある。	B	【意見】先生方の仕事量が年々増えているのも分かる。その中の勤務縮減も大変であろうかと思う。
②時間外労働縮減、会議時間短縮、定時退校、休暇取得	定時退校日の設定(毎週火曜日、達成率90%)	A				
	会議時間の短縮(1H以内の会議80%)	C				
	休暇取得の推進(一人年間15日以上)	B				

A-達成 B-ある程度達成 C-未達成 ○:成果 ▲:課題 ◆:来年度に向けて